

項目		評価	評価の分析と課題	改善策・向上策
教育課程 生活教育	①個別プラン	A	・個別教育相談会前に提示し、相談会で丁寧によりとりしている。	・項目や記述内容について、検討・精選していく。 ・これまで同様に丁寧な提示と説明を行っていく。 ・プラン内容を確認し、授業づくりに生かす。
	②教育活動	A	・研究をとおして学部内や学部間のつながりを検討し、よりよい活動づくりができた。大学の助言者との連携を深め、個々の学びに焦点をあてた事例研究の成果といえるのではないかと。	・大学等と連携した研究をとおして、個々のニーズに応じたカリキュラムについての検討を進めていく。 ・個々の発達段階に応じて、より適切な教材や支援の在り方について検討する。
	③情報共有	A	・連絡帳や各種おたより、相談会等をとおして、活動の様子を伝えることができた。 ・連絡アプリコドモンの使用が全体で定着し、欠席連絡や緊急連絡をスムーズに行えた。	・個人情報の保護に十分留意しながら、ホームページ等での適時の情報共有に努める。
生徒指導 保健教育	④安全教育	A-	・避難訓練後におたよりを発行し、訓練の内容の振り返りや防災情報などを伝えることができた。	・校外学習等において日常実施している安全教育・保健指導の内容について、適宜、保護者に周知する。
	⑤情報教育	A-	・児童生徒の実状に応じて、個々に、タブレット端末の活用や情報モラルについての学習を実施しているが、内容等についての周知が不十分であった。	・県など外部から提供される情報モラル等についての情報について、ホームページ等で適宜周知し、家庭と連携しながら情報教育を実施する。 ・タブレット端末の機器の活用について、効果的なアプリ等の活用方法や情報モラルについての情報収集を行う。
	⑥保健教育 ・食育	A	・コロナの5類移行後、日々の活動の中で調理や運動を増やすことができた。 ・養護教諭や栄養教諭と連携した取組について、各種おたよりで発信できた。	・心身の発達や効果的な運動について、効果的な情報提供の方法を検討する。 ・養護教諭や栄養教諭と連携した教育活動について、さらに効果的な取組を検討する。
進路指導 キャリア教育	⑦キャリア教育	A	・研究をとおして、キャリア教育の視点を意識した活動を設定できた。 ・個別教育相談会や進路相談会、進路だより等で、学校での活動について、キャリア教育の視点で発信できた。	・キャリア教育の視点を意識した教育活動の設定と情報発信を継続する。
	⑧進路学習・ 進路指導	A	・ケース会、見学会、実習、学習会等で、進路に関する情報を適宜発信できた。 ・きめ細かな現場実習や体験実習の取組が、高い評価につながったと考えられる。	・児童生徒のニーズに応じ、個々のタイミングに合わせて進路学習を実施する。 ・進路や将来の生活に関連する情報を整理し、相談会や学習会を設定して情報を共有する。
教育相談・ センター的 機能	⑨教育相談	A	・児童生徒対象のおしゃべりタイムが定着し、活用が進んできたと思われる。保護者対象の各種相談会の利用も多かった。	・各種相談会の内容や利用の仕方を周知し、継続・充実を図る。
地域交流	⑩地域交流	B	・居住地校交流や学校間交流、虹の市などを対面で実施できるようになり、ニーズに応じた交流が実施できてきたが、コロナ前の状況と比較すると不十分ととらえられるところがある。	・児童生徒のニーズに応じて、生活に関連づいた交流活動を計画・実施していく。 ・実践の内容を適時に学部だよりや学校だより、交流だよりで発信する。